



長野県生坂村立生坂保育園  
園長 寺島美智子

## 1 防災教育の取組

東日本大震災を機に、子ども達への防災教育の必要性和、地域とより強く繋がっていく大切さを感じました。保育園では月1回避難訓練を行っています、今までの避難訓練だけで果たして子ども達の命を守ることができるのか、という疑問が湧いてきました。幼い子どもであっても災害の危険について理解し、自分の身は自分で守ろうという意識や、災害に応じた行動の仕方を身に付けることはできないだろうかと考え、子どもを中心とした防災教育に取り組むことにしました。

## 2 「避難訓練の歌」作成

小さい子どもですから理屈や知識だけでなく、頭と体の両方を使い楽しくできる事が大切かと思いました。そこでまず、避難の時の4つの約束（押さない・走らない・喋らない・戻らない）を歌と

身振りで覚えてもらおうと、『避難訓練の歌』を作りました。リズムに言葉を載せて歌うラップにしたのは、楽譜がなくても誰でもその場ですぐに歌え、覚えやすいからです。リズムに乗って身振りを付けて歌うので2歳の子でも覚えられ、子ども同士で歌い踊っている姿が見られました。

## 3 自分で考えて行動する力を

大きい子は災害についての理解やイメージを確かなものにするために、家や木だけを描いてある絵に、グループで自分たちの知っている災害の様子を自由に描きこんでいく活動をしました。すると救助や避難に関する絵も多く描かれていました。できた絵を見合いながら、災害の特徴や、どういう行動をするのがよいかを話し合い考えていくことで、より具体的な災害イメージができていきました。

災害と取るべきポーズが一致してきた



歌って踊る『避難訓練の歌』



自分の目で見て考え行動する事が出来るように「防災ファーストムーブ」を企画・実施いたしました

火事の際はハンカチの必要性がよくわかります



地震の絵を見てポーズをとる子ども達

子どもが描いた地震のイメージ画  
(屋根で救助を待っている)

ところで、その絵を使って全園児でゲームをしてみました。ピアノに合わせて自由に歩き保育士が絵を見せ、「家事」「地震」などとコールしたら、考えてそのポーズをとるのです。目・耳・頭・体を使ったゲームです。災害のポーズの他にも「聞いて」のポーズや停電、ガラスの飛散時の動きも作り、体で覚えられるようにしています。

また、災害はどこでおこるかわかりません。どこにいても、より安全な場所に逃げる事が大切です。そこで安全と危険の2種類の絵カードを作り、子どもが自分で安全や危険だと思ふ場所にカードを

置きます。そこに置いた理由を聞き、皆で検討していきます。これにより自分の知識と実際の園舎内とを関連させていくことができました。普段の生活の中で繰り返しやっていくことで、災害時にもよりよい行動ができ、大切な命を守れる事を願います。

#### 4 地区住民と保育園の連携

生坂保育園は地区の避難所にもなっています。地区住民と保育園が共に命を守り合っていくための連携として、園庭で保護者や園児が、地域住民と合同炊き出し訓練をしたり、一緒に干し芋作りをし、保存食として配布しました。また園で防災講演会を開催し、そのPRに園児達が近隣を回るなど、子どもを中心に地域との絆を深めてきました。園児も地区住民に親しみや信頼感を持てば、もし地区の方が避難してきても戸惑いは少ないのではないかと思います。

命の大切さを知り、大切な命を守るすべてを、楽しく学び身に付けられるよう継続して防災教育に取り組んでまいる所存です。



地域住民との合同炊き出し訓練